

季節の言葉

(光村 五年)

冬から春へ

第一次と第二次指導を合わせて(二時間扱い)

目標

・日本の気候風土から生まれた季節にかかわる言葉を楽しみながら年間のまとめをする。

- 準備 (教科書と鉛筆一本) プリント二枚
- 読んでみましたか。感想は。
- 〈区画〉 詩・俳句・短歌で四区画

第一次指導指導扱い

- 一 よむ (音読 四名ずつ二回 計八名)

- 席順に、大きな声でゆっくりと読む。
- 聞き手は、立腰、集中して聴く。
- 読後、読み手と聞き手を評価する。

- 二 とく (読後感の整理の話し合い)

- 題目 (教材の輪郭を確認する)

- ・ (季節の言葉 冬から春へ) と板書
- ・ 年間四回の題名 春から夏へ
- (プリント配布) 夏の日
- 秋の空

「冬」からの連想

- ◎ ひびき (印象の強いところ)

- 冬(星座、氷柱、風花、東風)
- 手引き (視写の指示) プリント配布

- ・ 詩、俳句二句、短歌一首の視写

- 三 よむ (手引きに従い黙読)

- 四 かく (視写 教師も板書 工夫して)

- しっかりと書き取りと視写

- 机間巡視して書きぶりを確認し評価

第二次指導指導扱い

- 五 よむ (音読 四名)

- 六 とく (板書部分について話し合う)

- 語義 (難しい語句の解消)・区分

・さゆる ふりしく 奇しき いこえる

しじま ぞ 吹かば 忘れそ

・区分 (それぞれを二区分)

- ◎ 心 (文語表現を味わう)

〈詩〉

・情景 (時間・気温・風・色)

〈俳句 汀女〉

・情景 (天気・時・風・焦点)

〈俳句 遷子〉

・情景 (場所・天気・風・矛盾)

〈短歌 道真〉

・心情 (補説・都・大宰府・想い)

- 余韻 この作品を覚えよう。

- 七 よむ (全員で黒板の作品を音読)

・指音読 (鞭の指揮で音読)

・暗唱 (最初の字か漢字を残して)

〈板書事項〉

季節の言葉

春から夏へ 若葉 青葉 風かおる

夏の日 夕立 入道雲 風鈴

秋の空 天高く 鱗雲 星月夜

冬から春へ

冬の星座 ウィリアム・ヘイス 作

堀内敬三 訳

木枯らしとだえて

さゆる空より

地上に降りしく

奇しき光よ

ものみないこえる

しじまの中に

きらめき揺れつつ

星座はめぐる

夕焼けてくはほそだつなる氷柱かな

中村 汀女

華やかに風花降らすくどの雲ぞ

相馬 遷子

東風吹かばくにはひおこせよ梅の花く  
主なしとて春な忘れそ

菅原 道真